

ロシアの軍事侵攻を非難し、軍事行動の中止を求めます

2022年2月25日

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

ロシアはウクライナ問題の外交解決をもとめる国際世論を無視して、24日からウクライナ全土への大規模な軍事侵攻を開始しました。これはウクライナの主権と領土をいちじるしく侵害する武力行動であり、国際関係において「武力による威嚇または武力の行使」を慎むよう求めた国連憲章と国際法の明白に違反するものです。

プーチン大統領が侵攻にあたってのべたどのような口実も、法と人道に反する今度の行為を正当化することはできません。軍事侵攻によって民間人を含む多くの犠牲者がでていと伝えられています。私たちは、このロシアの行動を強く非難し、ロシア軍に軍事行動を即時停止し、撤退するよう求めます。

プーチン大統領がこの危機にあたって核兵器の保有を誇示して、その先制使用まで示唆して、世界をどう喝していることは許しがたいことです。

プーチン政権の暴走をとめさせるのは、ロシア国内を含めて世界中に広がる国際世論です。「戦争やめよ」の一点で団結し、声を上げていこうではありませんか。

ロシアの軍事力行使はウクライナ問題の解決につながらないだけでなく、事態を一層複雑にして危機を深めるだけです。私たちは、次のことを求めます。

- ロシアをはじめ関係国は戦争をとめる外交努力を続けること；
- ロシアをはじめ関係国は、ウクライナの主権を尊重し、外部からのあらゆる介入をやめること；
- 関係国は、ウクライナ国民が少数民族の扱いの問題を含め、自主的、民主的、平和的な方法で国の秩序を回復できるよう支援すること。

日本AALA連帯委員会は、世界の民族独立運動を支援し、主権と独立を守ってたたかう人々と連帯運動をすすめてきました。この立場から大国のあらゆる覇権主義に反対し、今回の危機の背景となった軍事同盟・ブロックの解消を求めます。そして日本が一日も早く日米軍事同盟のくびきから脱し、自主的な立場にたった平和外交に転換することを求め、東アジアの平和的秩序づくりと、非核・非同盟・中立の日本をめざして活動します。

(以上)